

認定こども園 神戸鹿の子幼稚園

令和元年度 学校評価

1. 本園の教育目標

健康な体をつくり、情緒ゆたかにして積極性のある行動力を育て、心身共に健やかで社会に適応できる子どもの育成に努めます。

2. 重点的に取り組む目標・計画

- 園児が主体的に活動できる環境の整備
子どもの主体的な活動を重視し、自分ができること、やってみたいことを進んで取り組める環境を整える。
- 国際感覚の養成（昨年度より継続）
異文化と触れ合うことで、ものの考え方や価値観、視野を広げるとともに日本文化について理解を深める機会を設ける
- 健康面・衛生面の向上
体力面では身体能力の向上、衛生面では手洗いうがいなどを習慣化を強化する
- 教育活動の可視化
園での活動のねらいや具体的な取り組みを公開し、園と保護者、そして地域の方と一緒に、子ども達の成長を可視化できるよう工夫する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

番号	取り組み	具体的な内容と成果
3	体育指導	夏に安田式の研修を導入し以下の項目を重点に取り組んだ。 ①「ケガ防止」・・・ケガ防止を図るべく運動機能、動体視力の向上に努める。 ②「理論」と「実践」・・・ただ体を動かすのではなく、「なぜ」という気持ち「なんのために」するかに着目する。 ③「楽しさ」・・・楽しさは全てにつながる。できないは最終目標ではなく、そこにやりがいや充実感・達成感を得られるかを重視する。 0歳から2歳にふさわしい体育のありかたも追究し、ウエルネスと両軸で取り組み、今後の成果に繋げる。
1	保育室の多様活用	こどもの主体的な活動を支援するバンビルームで製作した羽子板をお正月遊びに使用することで、羽子板に挑戦する子どもが増えた。 ハロウィンパーティーやクリスマス会など、クラスを越えて皆で楽しむことができるイベントを行った。
4	ポートフォリオの導入	昨年度に引き続き作品展に向けた子ども達の制作活動の様子を写真に撮り、吹き出しコメントを添えたポートフォリオを作成し、作品とともに展示した。製作過程で生まれた子ども達の発見や話し合いの様子を「育ちの場」として捉え、保護者の方々や子ども達と共有した。 作品展当日、園児がお家の方に作品を紹介する姿などが垣間見えた。
2	国際交流	インドネシアから研修生を受け入れ、インドネシア製の楽器をいただき、コーナー保育ではチョンクラックというゲームで子ども達と遊んだ。自由遊びの時間、子ども達が率先して研修生の手を引いて遊びに誘う姿が見られた。研修生がムスリムということで、1日5回のお祈りの時間、ヒジャブ、ラマダンといった宗教に関わると文化に触れることで新鮮な経験ができた。
3	設備改修整備	昨年度に引き続きトイレの改修工事を実施した。老朽化によるトイレの3K（暗い・汚い・怖い）の改善を行うことで、気持ちよくトイレに行ける環境を整備した。 また、経年劣化により安全性が懸念されるジャングルジムを撤去し新しいものを設置した。

4. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成されている	前述の「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」より明らかである。

5. 今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み状況
幼保連携型認定こども園としての体制強化	縦割り保育の充実

6. 財務状況

監査法人による財務監査により、適正に運営されていると認められている。

7. 情報公開


本学園ホームページに保育活動や基本的な情報を積極的に公開している。


アドレス… <http://kobe-kanoko/net>

8. 学校関係者の評価

評価委員からは「概ね良好な運営をされ、学校評価にも積極的に取り組み、特に指摘すべき事項はなく、妥当である。」と認められた。

学校評価委員

上田 哲世 

大和 晴行 

中西 利栄 